

2 幸手の環境像

幸手の環境像は、環境の基本理念の下で、幸手の環境の望ましい姿を総体的に表し、計画全体を束ねるものです。本計画の独自の理念ともいえます。

幸手の歴史を振り返ってみると、ここ 50 年程の間に生じた生活様式・産業・土地利用などの変化が極めて大きく急であったことに気づかされます。このことから、おおよそ 50 年後の将来を目安として、望ましい幸手の環境像を以下のように定めます。

大地の恵みを共有し共生する営み

幸手には、河川がもたらした平野で農作を営み、大地の恵みの中で発展してきた歴史があります。そこでは現代に比べて、資源の消費・廃棄は少なく、水や大気はきれいで、多種多様な野生生物が生息していました。

この環境像は、このような歴史に学びながら、大地の恵みの中で、人も野生生物も共に健全に生きていく営みを、幸手の健全で恵み豊かな環境と、持続的に発展する社会を象徴する姿ととらえて表したものです。

郷土を愛するところを育てる美しい風景

河川沿いに広がる田園と明るく広い空が織りなす風景は、幸手の歴史が作り上げたものです。その風景が美しくあることは、土地が荒れず、水や大気はきれいで、多種多様な野生生物が生息するというような、健全で恵み豊かな環境の反映といえます。

この環境像は、幸手で生きる多くの人々がそのような美しい風景を作り、また、その風景によって郷土を愛するところが育つ様を、幸手の健全で恵み豊かな環境と、持続的に発展する社会を象徴する姿ととらえて表したものです。

資源の環・人の和・生命の輪で実現されるしあわせの WA

幸手という地名は、そこに含まれる幸の字が「しあわせ」を意味することから、忘れがたい特別な印象を人々に与えています。

「資源の環」は自然界の物質循環や、資源の循環的利用を、「人の和」は社会や協働*を、「生命の輪」は生態系や共生*を表し、「しあわせの WA」にはそういった環・和・輪が人々のしあわせに結びつくという意味が込められています。

この環境像は、資源の環・人の和・生命の輪がどれも良い方向に進むことによって、人々のしあわせが実現していく様を、幸手の健全で恵み豊かな環境と、持続的に発展する社会を象徴する姿ととらえて表したものです。